

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674900164
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	スマイル園
所在地	鹿児島県出水郡長島町鷹巣3681番地5 (電話) 0996-86-1152
自己評価作成日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年5月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*母体法人の運営する医療機関と渡り廊下でつながっており、緊急時の連携体制がとれています。  
 \*自家菜園で季節の野菜を作り、採れたての物を食材として利用しています。また、海の幸が豊富で、新鮮な魚料理を提供しています。  
 \*ご家族参加の花見や家族会、面会、園だよりなどでご家族と事業所との関係づくりを大切にしています。職員も地元の人がほとんどで、利用者本人やご家族とも面識がある方が多く良い関係が保てています。また、秋に法人の祭りを開催しており、ご家族はもとより町内の方が300名ほど集まり、職員の出し物やボランティアの方の出し物で楽しんでいただいています。  
 \*保育園、幼稚園、小学校の子供たちの慰問が多く利用者も楽しみにしています。また、中学校より職場体験、福祉体験の場として生徒の受け入れをしています。  
 \*自分たちで課題を見つけ、担当者が調べて他の職員に教える形の勉強会を2ヶ月に1回行っています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念は職員全員で作成し、理念をサービスの基本として、室内やパンフレットに掲示している。
- ・町内会に加入し地域行事に積極的に参加したり、母体法人の秋祭りにも多くの地域住民や家族が参加するなど日常的に交流している。認知症の相談も受け、助言などして認知症対策や情報発信の場となっている。保育園児や小学・中学生が気軽に訪問して利用者と触れ合いを楽しんでいる。
- ・運営推進会議は定期的に行なわれ、事業所の状況報告や課題・外部評価の結果報告など行い、参加者から提案や意見や要望を聞いて運営に反映している。
- ・行政や地域地域包括支援センターとの連携も電話や書類を直接持参した時に相談したり、運営推進会議にも参加があり連携が取れている。
- ・「身体拘束はしない」を基本に勉強会を行い資質を高めている。日中は玄間の施錠もなく自由に出入りでき開放的になっている。外に出て行く利用者がいても、さりげなく声かけしたり優しく寄り添い支援している。
- ・災害対策の訓練は消防署にきてもらい、指導や提案をもらっている。災害対策マニュアルや災害自動通報装置やスプリンクラーもあり災害時対応の備蓄も用意されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全員参加の話し合いで理念を作り、毎月の話し合いの場ですそれに関し、気づきがあればスタッフ、管理者問わず意見・注意等を出し合うようにしている。	全職員で理念を考え、事業所の目指す目標にしている。理念についてミーティングなどで確認し合い、共有し毎日のケアに取り組んでいる。事業所内に掲示しパンフレット類にも掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園から中学校まで子供達が来園したり、こちらが訪問したりし、また畑仕事の際、利用者連れて地域の人との交流に努めている。	町内会に加入し、鬼火焚きなど地域の行事に積極的に参加し、散歩や買い物の際には挨拶や会話を楽しんでいる。法人の祭りには、多くの地域住民や家族も参加している。保育園児や小・中学生の福祉体験、草取りや畑の栽培・収穫などボランティアや各種慰問があり地域との交流も盛んに行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や介護相談員の訪問時、家族会の際、認知症のことを詳しく説明、中学校への職場体験や福祉体験の受け入れを実施し認知症の理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議で、利用者、施設の状況を報告し、意見を貰ったり、地域や家族からの意見、質問を頂き、その場で解決できるよう努力している。</p>	<p>会議は定期的に行われ、事業所の現況や外部評価の結果報告を行い意見や要望を聞いたり情報交換をして事業所の運営に活かしている。委員から防災についての助言などがあり、地域協力隊と連携体制を構築するなど、具体的な改善に繋がっている。地域マップの作成も計画されている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議や地域ケア会議などでも連携をとり、施設の状況や取り組みを伝えたりし、必要な場合協力を得たりしている。また家族会での報告も行っている。</p>	<p>役場に行った時、直接相談したり、毎月1回行政を交えて、町内の介護事業所が集まり会合をしている。役場主催の研修も多くあり必ず参加している。運営推進会議にも役場からの参加が毎回あり、役場職員とは日頃から情報を交換して、アドバイスをもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について職員は理解しているが、身体の危険が伴う方に対しては、主治医と相談し家族への説明、承諾書のもと時間を決めて実施している。</p>	<p>「身体拘束はしない」を基本にして、家族との信頼関係を日頃から築き、身体拘束についての説明をしている。定期的に勉強会を行い、職員の共有認識を図り、意識を高めている。日中は玄関の施錠はせずに職員間の連携で自由に出入りできるようにして見守りや寄り添い支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	老人虐待法の定義と実態について勉強会を開き職員の認識を新たにし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度が必要なケースが今までないが、勉強会にて行ない職員は理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明は、重要事項説明書に基づいて管理者が立会い、信頼を得ながら理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会にて家族から意見を頂き、利用者からも随時要望を聞いている。また、意見箱の設置や苦情の受付窓口を設けている。また、介護相談員が定期的に来園し意見が出た際には、職員会議で議題にして解決に努めている。	利用者からは、日頃の生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは、意見が出やすいように配慮し、家族会や運営推進会議時・面会時に家族から希望や要望を聞いたり、写真で事業所での過ごし方など話題にして、意見や要望を出してもらおう工夫をしている。出された要望で利用者に適した衣料品の説明の機会を設けたり、ターミナルケアに対し、感謝の言葉も聞いた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>最終決定は法人代表が主となるが、月1回のミーティングでスタッフの意見を把握して、検討、決定したり運営推進会議にはスタッフの参加を行なっている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、申し送りやミーティング時に、職員の気づきや意見・提案を聞く機会を設けている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。資格取得に向けた支援も行い、職員の意見が反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得や研修等に対し、積極的に支援し向上心をもてるよう努めている。また、残業手当もあり、職員の緊急の体調不良や忌引きにも職員同士が助け合い、休暇が取れる体勢も出来ている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1度の勉強会ではスキルアップの為にテスト形式でしたり工夫している。また外部研修にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア部会で地域の同業者との意見交換を行なっている。また、外部研修も意見交換の場として活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、本人の希望や要望はもちろん、本人からの希望が聞けない場合にも家族から情報を聞き長年積み重ねてきた生活歴を尊重し、表情などでくみ取り安心して生活出来るように声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談で認知症の理解がなく介護してきた方が多い為、認知症について説明し介護の現場を実際見て頂き、家族の要望を踏まえたうえで対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に応えられない状況や条件であっても相談をよく聞き、適切なサービスの紹介等心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に役割を持ってもらう事で、介護してもらう立場だけでなく協力しながら生活している、まだ自分も役に立てるという達成感もてるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の近況報告だけではなく、家族の近況なども雑談に交えて家族と職員の信頼関係を築いている。また外で会った場合にも気軽に声をかけて話しをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同集落の知人友人が面会に来られたり、地域の行事等を話題に盛り込んだり、ドライブでは自宅付近に出かけたりしている。	地元出身の利用者が多く、隣接した医療機関への通院時や老人会などへの出席の際に、知人や友人の訪問がある。家族の協力で行きつけの理・美容院や買い物、墓参にも出かけている。関係を継続できるよう働きかけ支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割分担で、互いに助けられたり、助けたりの関係作りに努め、トラブル調整もすぐに介入せず入居者同士の係わり合いをみながら行なっている。また、毎日、日誌に書きとめ情報共有に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も地域の方なので家族を含め会う機会も多いので、その後の経過把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で何を楽しみにされ求められておられるか、話をしたり表情から読み取ったりして把握に努めている。困難な場合、スタッフ皆で本人の思いを確認することを心掛けている。	利用者とコミュニケーションを取る機会を多くして、レクリエーションの時などで感じ取ったことや話しをして気づいた点を気づきノートに記録して、職員で話し合っている。困難な利用者には表情やしぐさを観察しながら、家族や馴染みの友人・知人からの情報も得て、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時や必要時の情報収集にてその方の生活暦の把握に努めている。また、記録や7表にて入居中の経過なども把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員でカルテや第7表を見て、一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者にとってどのような生活がよいかアセスメントを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りやミーティング、介護相談員、家族会、運営推進会議などで意見交換を行ない、面会に合わせて担当者会議を行い、介護計画の作成に活用している。</p>	<p>本人や家族の意向を汲み取った上で、担当者会議で話し合い、主治医や看護師・必要な関係者の意見やアドバイス等を取り入れ、介護計画を作成している。気づきノートや申し送りで日常の変化などがあれば、その都度、話し合い意見交換をして、必要であればプランの見直しをしている。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、経時的な記録とその方の様子が視える記録をとっている。職員間の情報の共有を徹底し、担当者会議を基に介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>母体法人が運営する医療機関と隣接しており、医療的ニーズが発生した場合には本人や家族に柔軟な対応が取れるよう連携している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防からの協力を得ている。小中学校、保育園、幼稚園へは訪問の依頼の働きかけを行ない、年数回実施している。運営推進会議にて役場や公民館と連携をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が運営する医療機関と隣接しており、主治医の定期的な訪問を受けており、状態の変化があった場合は早急な対応をとっている。また、必要に応じて他医療機関への受診も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医への支援体制で、通院は家族が対応している。母体医療機関からの週2回の定期健診や必要に応じて歯科医師の往診もある。緊急時の対応などには連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤で配置し、また、定期的なや居宅療養管理指導を受け健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は情報の提供を行なっている。また、家族・スタッフで協力し訪問したり病院関係者と情報交換を行ない、速やかな退院支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアのマニュアルを作成し重度化、終末期への対応に備えている。必要に応じて本人や家族の意向を確認し、安心して最期を迎えられるように医師、職員が連携を取っている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。終末期のターミナルケアのマニュアルがある。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、医師を含む関係者が連携して支援に努めている。職員全員がその方針を共有している。隣接の母体医療機関から看護師の24時間体制が取れている。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当のマニュアルや事故発生時のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルを作成し、2名の防火管理者を中心に日中、夜間想定で避難訓練や消火器の使い方の訓練などを年2回行っている。スプリンクラーと自動通報装置の設置も済んでおり、毎月1日に通報訓練を行っている。また、火災時の地域協力隊の存在もある。</p>	<p>年2回、災害訓練を防災マニュアルを基本に消防署に来てもらい昼夜間想定での避難訓練を実施している。自主で毎月通報訓練も行っている。器具の点検、備蓄の確認を定期的に行なっている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され「地域防災協力隊」との協力体制もできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元の言葉での会話で親しめる環境作りをしているが、年長者としての敬意を忘れないよう心掛けている。トイレやオムツ時の声かけ等は羞恥心に配慮した言葉掛けに留意している。	その人らしく日常生活が送れるように尊厳や人権を大切にしている。言葉かけなど馴れ合いにならないように、入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する心配りを行い、一人ひとりが安心して暮らせるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方が少なく職員の誘導で1日を過ごしている事が多いが、体調や表情などをくみ取り無理のない様過ごして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れ、週間の流れは持っているが、1人ひとりの体調に合わせて出来る限り個別性に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己での身だしなみが困難な方には、STで声かけしながら介助している。散髪は希望の方にはスタッフがカットもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は一緒に食事の準備や片付けを行なえる方は1人であるが、負担にならない様に声かけしてしながら行なっている。旬な材料を活かして食事を楽しめる工夫も行なっている。	母体医療機関の献立を参考にし旬の野菜や新鮮な魚などを使った食事を工夫している。季節物のつわなど皮むきや食事の準備・後片づけを職員と一緒にしている。家族の協力を得て外食もしている。誕生会や敬老会・正月などにケーキや行事食を作り、食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の定期採血での栄養状態を元に食事形態に工夫したり、食事量の増減を行なっている。水分量は1日平均1000ccを目標にチェック表にて記載把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来ない方がほとんどで、職員が利用者に合わせて毎食後や夕食後に口腔ケアを行ない義歯洗浄剤に浸けている。義歯のない方は、うがいと舌磨きを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用以外の方は尿意便意の時には介助でトイレで排泄し、時間をみては誘導を行なっている。排便チェックシートにて管理している。	毎回の排泄の記録を個人別に行い自尊心に配慮しながら、声かけや誘導でトイレでの排泄に取り組んでいる。オムツ使用を減らすように心がけ、日中は、声かけをしながらトイレへの誘導をして自立に向けた支援を行なっている。一部の個室にはトイレが設置されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックシートでの1日1000cc補給し、腹部不快や、食欲低下が見られない場合には無理に下剤服用することなく様子観察している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は月曜日と木曜日で固定されており、希望のタイミングでは入浴していないが、湯の温度や順番には個々に対応している。	入浴は週2回を基本に、体調や希望に添った対応ができるようにしている。湯の温度や希望を聞いて、入浴剤を使ったりしている。入浴をいやがる利用者には、順番を変えたり、時間をずらしたり、職員を交代して声かけするなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在、車椅子の方が多く長時間座位は苦痛で臀部への負担も大きいいため、食後1時間したら臥床促し休んでいただいている。部屋の配置も安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導や園便りにて現在何の薬を服用しているか家族には伝えているが、利用者で理解されている方はいない。職員は誤薬がない様確認は3回行ない、服薬確認を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに応じた楽しみ方で、なおかつ短時間で楽しめる負担のない支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望にそって外出は出来ていないが、天気の良い日は園の周りに散歩に出かけ地域の方と立ち話しをしたり自宅周辺へのドライブに出かけ馴染みの方と話しをしている。	日常的には散歩に出かけ、挨拶や会話を楽しんでいる。希望があればドライブで普段行けない所などに行ったり、馴染みの所や初詣などに行ったり楽しめるようにしている。家族の協力でも墓参や買い物・受診・外食などにも外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の所持を希望する方がおられず預かりも行っていない。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の要望に応じて職員が電話をかけて本人が家族と話され頼み事をするのがあり、また、書ける方には賀状を書いてもらい、新年を迎える喜びを感じていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	常に清潔が保てるよう配慮し、シンプルに整えている。車椅子の方が多いため、駆動時に、衝突しないよう食台のスペースも広く取っている。	ホールは広く、換気や採光に配慮し掃除が行き届き、エアコンが設置され温度湿度の管理が自動的に行なわれている。車椅子の移動がしやすいように配慮され、壁には日常のホームで過ごしているところや外出時の写真が貼ってあり面会に来た家族や訪問者が楽しめるようにしてある。利用者の作品も飾ってある。ソファが多く置かれ好きな場所で過ごせるように、居心地よく配慮されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	テレビのある食堂にソファを置き座って居眠りされるかたもいるが、殆ど車椅子の方で自分で駆動することが出来ない方が多く自室で過ごされる方が多い。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が必要な物、馴染みの物などは家族に頼み、持ってきてもらっている。家族が面会に来られた際にもゆっくりしていただける様に、人数分の椅子を用意している。</p>	<p>ベッドや整理タンス・椅子は備え付けである。トイレが設置されている部屋もある。居室は本人や家族が相談しながら自宅で馴染んできた品物や家族の写真・作品などが飾ってある。その人らしい部屋で、本人が安心して生活できるように工夫してある。家族が面会しやすいように椅子などの配慮がなされている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベットには手すりを取り付け寝返りや起き上がりがしやすいようにし、トイレの手すりも最小限の介助で済むよう出来るだけ利用者の力が発揮できるよう支援している。部屋の戸に名前を書いたプレートを飾って自分の部屋が分かるようにしている。</p>			

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない